

# 安全な職場環境のために

## フジタの考え方・体制

当社は、協力会社の作業員の皆さまおよび当社従業員の健康と安全を確保し、安心して働けるよう、「安全・品質・環境マネジメントシステム」の一環として、「予防」「全員参加」「継続的な知識と意識の向上」を柱とした、労働安全衛生マネジメントシステムを運用しています。運用においては、定めた方針や目標についてのPDCAのサイクルを回し継続的改善を図り、「笑顔あふれる安全な職場」「会社が認める高い品質」「未来につながるやさしい環境」づくりをマネジメントしています。

また、スローガンとして「フジタの安全文化を確立しみんなで作る危険ゼロ」を掲げ、業務に潜む健康・安全リスクの重大さや可能性をあらかじめ予測し、その予測結果に基づいて対応策を決定・運用しています。

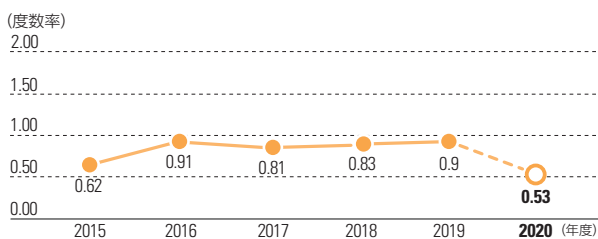
## 2020年度の目標と活動実績

死亡・重篤災害は、発生件数0件の目標に対し、国内と海外において合計3件発生し、また度数率も目標0.5未満に対し0.53、第三者災害についても目標0件に対し1件発生となり、いずれも未達となりました。これらの状況を重く受け止め、2021年度は2020年度の重点取り組み事項を継続し、特にヒューマンエラー対策に注力し、今後も危険ゼロの、誰もが安全に、安心して働ける「エイジフレンドリー職場」づくりによる健康確保と災害予防に取り組んでいきます。

## 重点取り組み事項

- I 「三現主義」により作業所の安全衛生環境を確保
- II 「凡事徹底」による不安全行動の災害・事故の防止
- III 有害な作業環境への適切な予防対策の実施

※三現主義とは、現地で現物を見て、現状を確認すること



$$\text{※度数率} = \frac{\text{死傷者数}}{\text{延べ実労働時間数}} \times 1,000,000 = \left( \frac{\text{延べ労働時間100万時間あたりの労働災害死傷者数}}{\text{延べ実労働時間数}} \right)$$

## 災害のない作業所の実現のために

災害のない作業所を実現するために、組織としての安全力の向上、個々の安全力の向上を目指してさまざまな活動を行っています。

### 安全緊急集会

2019年度に発生した死亡災害を受け、全作業所を対象に、安全緊急集会をWEB会議システムを活用して全15回にわたり実施しました。経営陣からの「安全は何よりも優先される」という強いメッセージの発信と、作業所長一人ひとりがフジタの安全をつくり上げていくという決意を表明しました。

### 支店・事業部 幹部・管理職教育

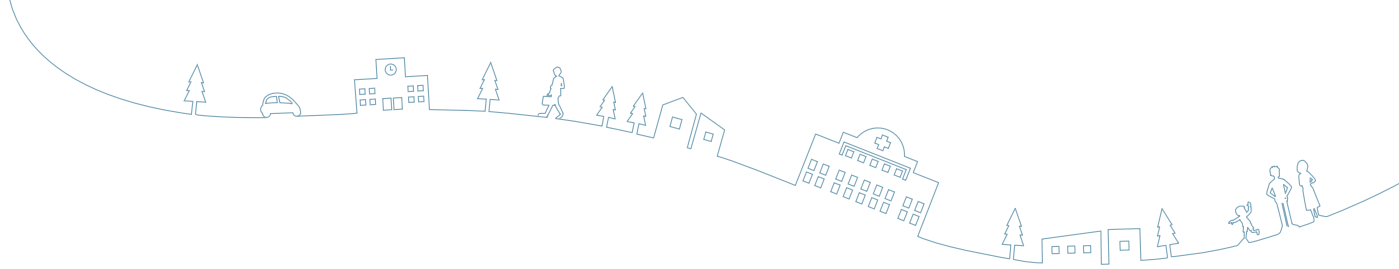
災害防止には作業所における安全管理体制の構築に加え、各種法律に定められている事項の遵守だけでなく、+αの安全施策が必要となります。2020年度はWEB会議システムを活用して、元労働基準監督署署長の労働衛生コンサルタントによる幹部・管理職教育を開催し、心得ておくべき事柄や、注意すべき事項についての認識を深めました。

### 作業所長教育

実際に作業所を預かるリーダーである作業所長に向けて、元請けとしての安全管理に関するさまざまな教育を行っています。災害を未然に防ぐために、元請けとして法律的に求められていることは何か、また、協力会社に対して何を指導する必要があるのかに始まり、実際に発生した近時の災害事例やトラブル事例などを水平展開し、安全管理の重要性を喚起しています。



幹部・管理職教育の様子



## 安全パトロール

フジタでは建設現場の安全衛生管理状況を確認するため、安全パトロールを定期的に行い、安全品質施工会議で決められた事項が確実に実施されているかの確認をしています。

2020年度からは、緊張感を持って日々の安全管理業務を継続実施することを狙いとして、経営陣や安全担当部門の幹部による事前の予告を行わない抜き打ちでのパトロール制度の運用を開始しました。結果は社内システムにも公開され、日々の安全管理に対する意識を高める効果にもつながっています。



経営トップによる安全パトロール

## Topics

### IoTによる安全管理の取り組み (WEBカメラ、Wearableカメラの活用)

新型コロナウイルス感染症の流行による人の移動制限の中、安全管理においても現地に赴いてパトロールを行うことが困難な状況が増えています。そこで、パトロールの機会の減少を補完するため、IoTによる安全管理の実践としてWEBカメラ、Wearableカメラを活用した安全管理に取り組んでいます。

作業所に設置されているWEBカメラを利用して、現場から離れた場所からでも多くの目でタイムリーに、かつ、Wearableカメラでは、固定式のカメラでは見切れてしまう細部まで作業状況を確認することができ、災害の発生要因として90%以上を占める不安全行動の防止に役立っています。

今後もIoTを活用した安全管理システムの導入と定着を図り、危険の芽を早期に摘むことを目指していきます。



Wearableカメラを活用したパトロール

## 作業員の安全衛生向上に向けて

### 健康管理への取り組み

作業員の高齢化が進み、疾病の報告が増加しています。当社は事業主との対話などを通じて事業主に対して健康診断の受診とフォローの指導を行なっています。新規入所時の際には既往歴や薬の服用状況を確認し、職長へ適正配置を呼びかけるとともに、日々の声かけ・コミュニケーションで健康管理の向上に努めています。

## Comment

### 労働安全衛生マネジメントシステムの 運用による安全への取り組み

建設業の後継者不足とそれを補うためのさまざまな社会環境の変化により、安全管理の在り方にも変化が求められています。高齢者や外国人就労者の増加、建設機械の進化や無人化施工など、過去の経験に基づく安全対策だけでは、職場の安全確保が困難な時代になっています。

この変化の激しい時代に対応するため、フジタでは、労働安全衛生マネジメントシステムを運用し、リスクアセスメントに基づく予防型の安全管理を推進しています。死亡災害・重篤災害・第三者災害は危険な状態と危険な行動が合致したときに発生します。

計画段階で危険な状態を取り除き、安全の70%を確保します。安全教育や現場に即した作業手順の周知徹底により安全を90%まで高めます。残る10%はヒューマンエラーです。最近の労働災害の90%以上がこのヒューマンエラーに起因しています。職場のコミュニケーションと危険予知活動の活性化により、ヒューマンエラーを抑止します。

環境面では、2050年の脱炭素社会達成に向け、環境配慮設計、再生可能エネルギーの使用、エネルギー効率の向上を推進していきます。

マネジメントシステムを運用しPDCAを回すことで、環境に配慮した安全で快適なエイジフレンドリー職場を築いていきます。



上席執行役員  
安全・環境本部長  
進藤 敏則